

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

報告日：2022年3月7日

1. 適正利用・エコツーリズム検討会議の仕組み及びWGの運営

本WGは、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で2010年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催している。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」である。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進している。その基本原則は次のとおり。

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
- 持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリングを毎回議題にしている。なお、長期モニタリング結果の評価の考え方などは、WGとして専門家同士の意見交換が必要と判断し、2018年度から適正利用・エコツーリズムWGを単独開催している。

2. 経過報告

<検討会議> 第1回：令和3年10月22日開催

(1) 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、検討がなされた1件の状況は以下のとおりである。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区 昆布ツアー	羅臼町観光協会	<p>半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして2016年の検討会議で試行合意。5年間（2020年、2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施）試行した。</p> <p>2021年度第1回検討会議において試行の総括報告が行われ、提案者より本格実施の決意表明が行われた。</p> <p>上記検討会議における協議の結果、本格実施の条件として、提案者はツアーの管理者として現行の試行条件を継続して管理を行うこと、その管理体制等について整理し次回検討会議（2022年4月を想定）で再度了解を得ることとされた。</p>

(2) 個別地域における取り組み状況と課題

1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業

冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで、静寂性を保って冬の知床五湖をまわるツアーを実施している。

2021年度もコロナ禍に伴い利用者の減少が見込まれることから、昨年度と同様に開催期間を15日間短縮し、1月29日から3月14日までの45日間でツアーを実施中。

2) 知床五湖における利用調整地区制度の運用

昨年度より継続して、植生保護期（レクチャーのみ）とヒグマ活動期（ガイド同行必須）の2つの制度で運用。利用調整期間（4/20～11/8）の地上遊歩道立入認定者数は47,147名（前年比108%）で、コロナ禍の前年からは微増。コロナ前と比較すると7割程度の入込状況となった。新型コロナウイルス感染拡大防止策として、レクチャー室での人数制限、消毒器の設置等のほか、必要に応じ、屋外でレクチャーを実施した。

また、利用調整地区制度が導入された2011年からの植生回復状況について、今年度現場確認を実施し、調査実施地点ではいずれも植生の回復が認められた。

地上遊歩道の再整備工事は、予定通り3月には終了する見通し。

3) カムイワッカ地区における取り組み

(ア) カムイワッカ地区自動車利用適正化対策

- ・5月1日～4日までの4日間については、交通規制を行わず、既存路線バスに加え知床自然センター～知床五湖間を往復する臨時バスを増便する乗り換え促進事業を実施した。
- ・8月は7日～16日の10日間についてマイカー規制を実施した。規制区間は例年同様の知床五湖～カムイワッカ間とした。乗車人数は5,500人だった。
- ・10月は1日～3日の3日間について、野生動物とのあつれき対策、新たな観光コンテンツの創出、地域の二次交通網の検討などを目的として、ホロベツ地区（知床自然センター）からの車両規制とシャトルバス（ナショナルパークシャトル）の運行を実施。乗車人数は総計2,475人（昨年同期比：81%）となった。

(イ) カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用検討事業

- ・7月にガイド引率型の試行事業Aを実施し、利用者数は32組、81人となった。10月はシャトルバス運行期間と合わせ個人利用型の試行事業Bを実施し、利用者数は132人となった。

4) ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働の保全活動

例年同様、知床ウトロ海域環境保全協議会で企画実施する「海鳥 WEEK」として、知床世界遺産センターでのケイマフリ展示や観光船・宿泊施設での海鳥トークを実施した。また、知床自然センターや周辺の飲食店とのコラボ企画を実施し、地域内での連携を強めたほか、Twitter や Instagram の運用を通して、普及啓発・情報発信の強化を図った。更に、活動資金を確保するため、新たに海鳥ハンドブック等のネット販売を開始した。

<ワーキンググループ> 第1回：令和3年10月22日 第2回：令和4年2月9日開催

(1) 第2期長期モニタリング計画について

- ・第2期計画の策定へ向けて、科学委員会で整理している総合評価に係る枠組みに基づき、モニタリング項目の位置づけや評価基準について見直しを行った。
- ・海鳥やヒグマの個体数の変動など、自然環境に係るモニタリングの評価は他のWGが担当し、本WGは利用に関する側面からの評価を担当することが適切とされた。
- ・他のWGと連携して評価すべき項目については、以下の「案1」にて進めることを科学委員会に諮ることとされた。

案1：関連するWG/APの合同開催にて検討

案2：関連するWG/APの双方に参画する委員にて検討

案3：科学委員会にて検討

3. 主な検討事項や今後の予定

<検討会議>

- ・知床エコツアーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツアーリズムの推進を図るため、引き続き年2回実施予定。
- ・令和3年度第2回検討会議は、新型コロナウイルス拡大防止のため、開催を延期した。延期後の開催は令和4年4月頃に実施予定。

<WG>

- ・次期長期モニタリング計画の進め方や評価の方法について一定の整理がつくまでは、引き続き開催（年1～2回程度）。

※上記2会議とも、ネット接続による遠隔参加を含めた開催を進める。